

ぶろしよつぷつうしん

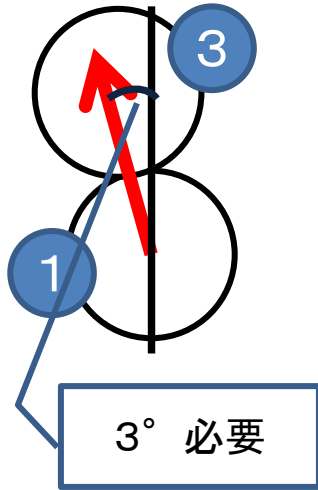
たかが3度されど3度

今回はストライクが出るときのピンアクションについてご紹介しましたが、ピンの動きを注意深く見ることができましたか？

さて今回もストライクに関するお話の続きをしていきましょう。

プロなどの投球でボールを曲げているのをよく見るかと思えます。「かっこいいな」「自分もボール曲げたいな」って思う方は多いかもしれませんね。

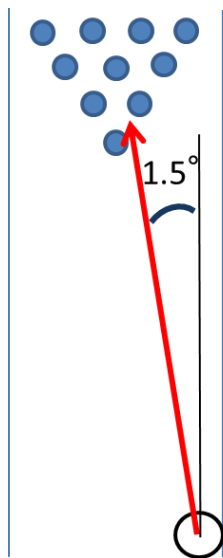
でもかっこいいから曲げているわけではなく、ボールを曲げる理由があります。それはポケットへの入射角度です。パーフェクトストライク理論を実現するために入射角度は大変重要になります。細かいお話になりますが、絵を見てみましょう。注目するポイントは、①番ピンに当たってから③番ピンに当たるまでの角度です。このときの角度が三度あるとストライクが出やすいと言われています。ただ、①番ピンに当たったボールは反動で若干右に動いて③番ピンに当たるのは前回お話をしたかと思いま



す。ということは、実際には①番ピンに当たるとき、三度以上の角度が必要になります。一般的には三〜六度の角度が必要とされています。では三度という角度はどれくらいでしょうか？数字だけ見たらたいしたことないように感じますよね？

例えば、レーンの右端からポケットに向かって直球をポケットに向けて投げた場合の角度は「約一・五度」しかありません。

直球では、自分たちの目指す角度の半分しか作



ることができません。だから曲がるボールが必要になってくるのです。

もちろん確率論ですからこの角度がつかなくてもストライクになることはもちろんあります。でもよりストライクが出るならそっちのほうがいいですよ？

ボールを曲げる技術はもちろん、現代のボールはより曲がりが出やすいように日々進化しています。このあたりも今後ご紹介していきたいです。

〈ドリラーのひとりごと 第20話〉

〜 BPAJ 〜

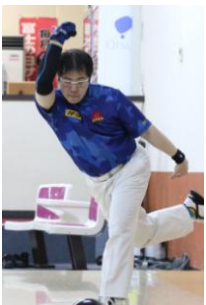
これまでいろいろな団体をご紹介してきましたが、多数あることに驚いている方もいるかもしれません。今回は「BPAJ」についてご紹介したいと思います。



BPAJは「公益社団法人日本ボウリング協会」といい、その名の通り、日本のボウリング場全体を統括する団体となります。下部組織には各都道府県のボウリング場協会があります。また加盟をしているのは、全国のボウリング場・ボウリング場事業者となります。

主な事業としては、BPAJ全国ボウリング競技大会の主催などボウリングを通じてスポーツへの参加を高める事業、ジュニアボウリング教室の主催など児童の健全育成事業、宮様チャリティボウリング大会の主催など福祉活動事業、その他各ボウリング関連団体への支援・国際交流・オリンピックやパラリンピックなど、ボウリングの普及に向けて様々な活動をしている団体となります。

〈筆者〉



佐取賢プロ(44期)
JPBA/PBAプロボウラー
JPBA B級インストラクター
JBC公認ドリラー